

「価格形成は新たなステージへ」

目 次

I. 中国ビレット輸出の減

- 1. 2017年2月のビレット輸出（推定） ----- 1
- 2. 輸出減の背景 ----- 1
- 3. ビレットの輸出採算からみた今後の動き ----- 1
- 4. トルコ、ベトナムの例 ----- 2

II. 価格変動要因は新たなステージへ

1. スクラップ価格の現状

- (1) 国内価格形成の特徴 ----- 3
- (2) 関鉄源入札価格の元となる外需要因（考察） ----- 4

2. 新たなステージへ ----- 6

2017年4月5日

株鉄リサイクリング・リサーチ

代表取締役 林 誠一

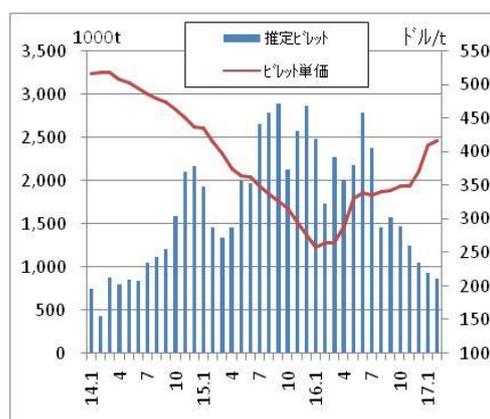
中国の安値ビレット輸出が世界の鉄スクラップ流通に影響を与え、かつスクラップの価格形成に関わってきた時期はもはや過ぎつつある。想定を上回る鉄鉱石価格の高値継続が、輸出ビレット価格を押し上げているためであり、価格変動は新たなステージを迎えている。

I. 中国ビレット輸出の減

1. 2017年2月のビレット輸出（推定）

2014年秋ごろから増勢が始まった中国のビレット輸出は、16年中ごろまで約2年間月間200万t～250万tの高水準が続いたが、16年8月以降低下に転換、17年1月にはついに月間100万tを切り、2月もその延長にあつて **87万t** に減少した。価格はHS72283090 その他合金棒鋼計だが **417ドル/t** である（備考；本物の合金棒鋼を10%程度含んだ価格と推察される）。

中国の推定ビレット輸出月次推移



2. 輸出減の背景

①トピックス NO39 でもふれたが内需は依然として活気が乏しい。16年平均の固定資産投資の伸びは8.1%増であり、年初の10%台から5月には9%台、7月以降は8%際で推移している。これに連動してビレットを圧延して生産される鉄筋棒鋼生産量は15年の2億430万tから16年は2億80万t（前年比1.7%減）となり、12月はそれまでの月間1,700万t台から1,650万tに減少している。

②ビレットは鉄鉱石を主原料とする高炉メーカーが主に生産しており、価格は原料である鉄鉱石輸入価格に連動している。従って鉄鉱石輸入価格が低位で経緯していたときはビレットは低価格で輸出できた。しかし高値の現在はその逆の現象となる。その結果、輸出競争力を失い量は減少せざるを得ない。すなわち輸出減は内需要因でなく、高価格となり価格競争力を失ったためと推察される。



3. ビレットの輸出採算から見た今後の動き

250万t輸出した16年1月のビレット輸出価格は258ドル/tであり、この時の輸入鉄鉱石価格は42ドルだった（グラフ参照）。その後鉄鉱石価格は上昇に転じ60ドル台となった時、ビレットは340ドル台となり、輸出量は150万t台に低下している。そ

して鉄鉱石価格 80 ドル、ビレット価格 370 ドルとなった 12 月は 100 万 t 際の輸出量だった。13%の増値税還付があるにも関わらずこうした経緯から推察すると、月間 200 万 t の輸出を維持するにはビレット価格が 340 ドル台、鉄鉱石は 60 ドル台である時と気づく。現状鉄鉱石価格が 90 ドル前後で推移していることを考えると輸出量復活の可能性は低い。

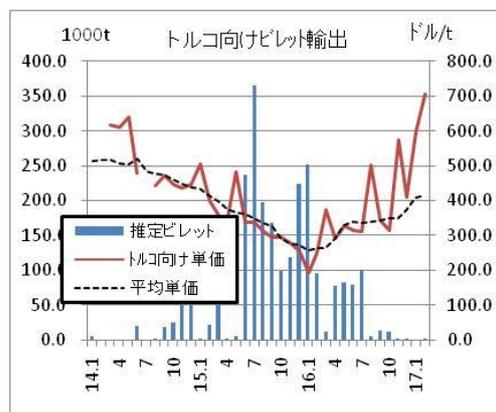
一方で内需低迷が継続すれば、輸出を行って高炉稼働を維持することとなり、そのギリギリラインの輸出量に近づいていると考える。今後は、もはや鉄スクラップ流通や価格に影響を与えるほどの吸引力は失っていくだろう。

しかしこの間、世界相場や輸出相手国に大きな影響を与えてきたのは紛れもない。

4. トルコ、ベトナムの例

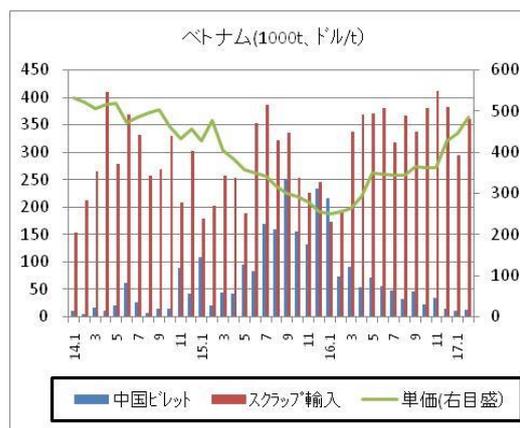
(1) トルコ

16 年初め鉄スクラップ相場が 15,000 円/t から 5 月に 25,000 円台となった高騰の背景の一つにトルコの中国ビレット買いがあった。中国は対トルコ向けを平均よりも低い価格で輸出していたが、突然 3 月以降高値に是正したため購入出来ず、鉄源不足を補う鉄スクラップ買いが生じ、その結果、世界相場を押し上げる要因となったと見られている。しかしもはや中国ビレットは撤退し、トルコの鉄源需要は元のスタイルに戻っておりこのような再燃（事件）は起きないだろう。17 年 2 月の中国ビレット 0.9 千 t は 705 ドル/t という単価からみて本物の合金棒鋼と想定される。



(2) ベトナム

ベトナムは現状は電炉主体の鉄鋼生産国であり、従って原料は輸入鉄スクラップでまかなっている。一方、陸路を接する中国より安価なビレットが 14 年末より入着し始めたため、輸入スクラップは中国のビレット価格との対比関係となり、鉄スクラップ輸入量も価格も抑えられた。すなわちビレット入着価格から自国の電炉コストを除いた価格がスクラップ輸入価格となる図式が展開する。こうした需給環境の変化のなか、ベトナム政府は輸入ビレットに対して 16 年 3 月 23.3%のセーフガードを発令する。ベトナムにビレットを輸出する場合は、従来の輸入



ベトナムの輸入量
単位1000t、%

	中国ビレット	スクラップ輸入	合計
2014	307	3,375	3,682
2015	1,484	3,194	4,678
2016	747	4,003	4,750
16/15	-49.7	25.3	1.5

関税 9%に 23.3%を加えた 32.3%の関税が掛かることになり、中国ビレット入着は劇的に抑制され、鉄スクラップ輸入が復活した。今や日本にとっては韓国に次ぐ 2 番目として重要な輸出向け先となっている。

II. 価格変動要因は新たなステージへ

1. スクラップ価格の現状

(1) 国内価格形成の特徴

①出荷量の多い関東が価格形成の元となっている。日本鉄源協会鉄源流通量調査による 2015 暦年の地域別出荷量（輸出を含む）は、関東 28.3%、東海 20.9%、近畿 17.3%、九州 10.6%、中四国 10.1%、東北、5.5%、北陸 4.0%、北海道 3.3%であり、関東が約 30%を占め最大となっている。このことは一番流通量の多いヘビースクラップのうち H2 でみるとより明確である。また関東の出荷先は自地域 57%を含む国内が 63%、輸出が 37%である。15 年の輸出量は 756 万 t あったがうち関東の 307 万 t は全国の約 40%を占める。このような関東最大という地域特性は、日本経済の拠点化と発展進度が背景にあると考えられる。

以上から国内の鉄スクラップ価格形成は関東が基点となっている。

	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中四国	九州	その他	計
出荷計	964 3.3	1,612 5.5	8,357 28.3	1,196 4.0	6,191 20.9	5,115 17.3	2,976 10.1	3,149 10.6	19 0.1	29,577 100.0
うちH2	50 1.5	230 6.7	1,167 34.3	205 6.0	674 19.8	393 11.5	324 9.5	361 10.6	1 0.0	3,406 100.0

データ：日本鉄源協会「鉄源流通量調備考」；H2は国内向け

	自地域	北海道	東北	北陸	東海	近畿	中四国	九州	国内計	輸出	合計
2015年	4,758 56.9	1 0.0	112 1.3	47 0.6	33 0.4	299 3.6	24 0.3	16 0.2	5,291 63.3	3,066 36.7	8,357 100.0

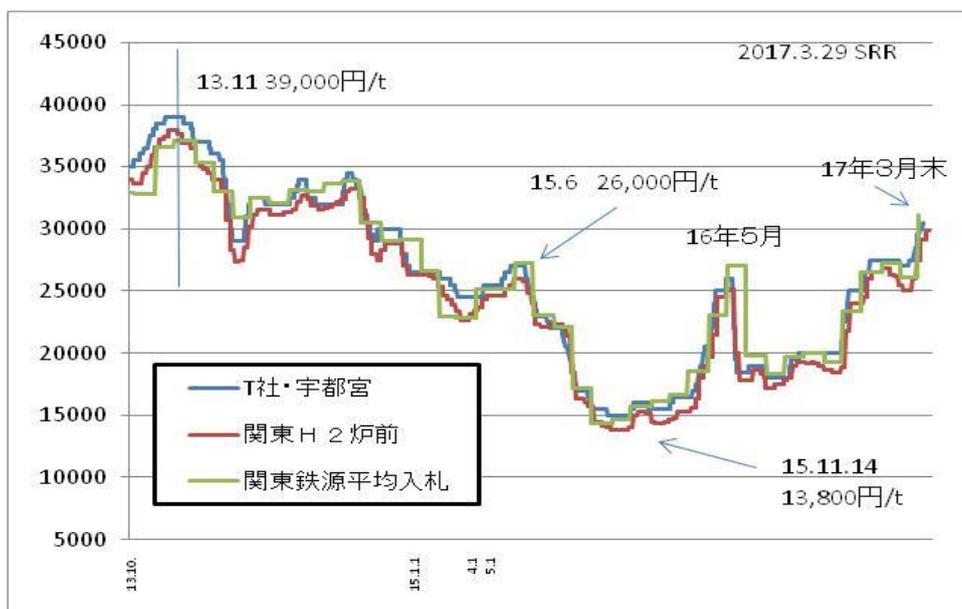
データ：日本鉄源協会「鉄源流通量調査」

②価格の先行指標はT社宇都宮購入価格と関東鉄源協同組合入札価格

価格は購入側で決まっており、国内では最大生産量（＝最大スクラップ購入量）である T 社の（宇都宮）購入価格と、毎月 10 日前後に行われる関東鉄源協同組合の輸出入札価格が先行し、この動きに関東地区の普通鋼電炉メーカー購入価格が追従する形と分析される。

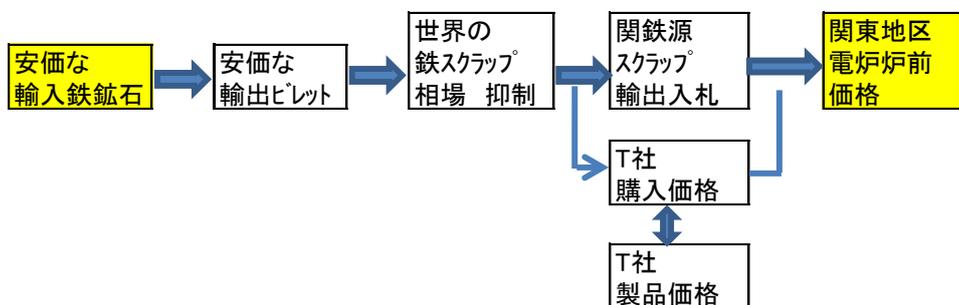
直近の 17 年 3 月時点では 3 月 9 日関鉄源入札価格は 31,168 円/t と 2 月 9 日の 26,051 円/t を 5,117 円/t 上昇となったが T 社宇都宮は 2 月 8 日 27,000 円/t は、しばらく動意なかったが 3 月 2 日 28,000 円/t、3 月 4 日 28,500 円/t、8 日 29,500 円/t と小刻みに上昇し、9 日の関鉄源 31,168 円/t を（受けて？）、11 日 30,000 円/t とし、16 日には 30,500 円/t に改定した。製品価格の改定を天秤にかけながらの原料価格上げであり、こうしたスクラップ価格の上昇変動に、関東地区電炉メーカー購入価格（鉄源協会が実施している各週月曜モニター調査）は、2 月 6 日 25,500 円/t は 3 月 22 日

には 29,833 円/t となったが、第 4 週（3 月 27 日）は同額で横這っている。
 3 月のスクラップ価格上昇は、関鉄源入札価格が先行を切ったと推察される。このような事例は 16 年 5 月にも見られる。16 年年初の関東地区鉄スクラップ 15,000 円/t レベルは 5 月初旬 25,000 円/t に 5 ヶ月で 1 万円/t も上昇したが、この背景に関鉄源入札価格が前月比 3,900 円/t 増の 27,000 円/t となった。上昇のきっかけは前述したトルコの急買いと鉄鉱石価格の上昇機運が挙げられる（次項）。



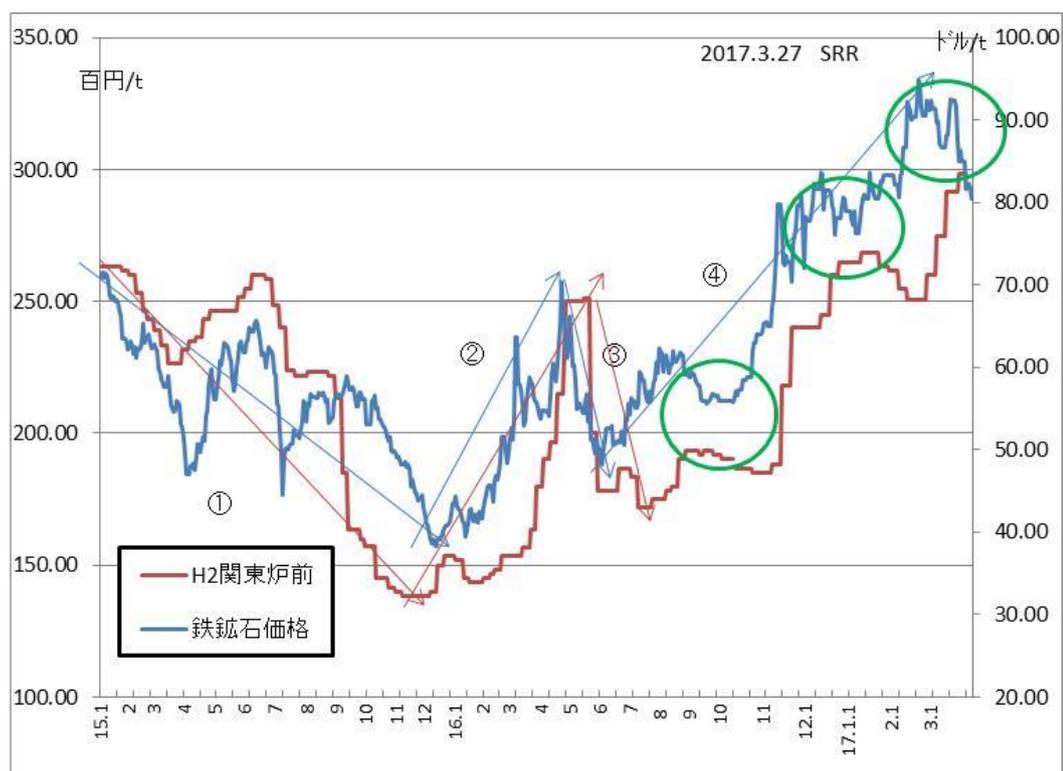
(2) 関鉄源入札価格の元となる外部要因（考察）

国内は製品価格との価格差が常に重要となるが、外需は国内事情とはお構いなしに中国の安価なビレット輸出に抑えられる動きとなった。
 安価ビレットは低価格な輸入鉄鉱石を原料にしていることから、スクラップ価格は下に示すような構図となり、中国の輸入鉄鉱石価格変動が関東地区電炉炉前価格に連動した。



両者の動きを 15 年 1 月から見ると、概ね 4 局面に分けられる。①の 15 年 1 月～12 月の 12 か月に及ぶ下降局面では鉄鉱石 46.5% 減に対して、関東炉前も 47.4% 減だった。続く 15 年 12 月～16 年 4 月の上昇局面では鉄鉱石 +85.5%、関東炉前 +81.7%、③16.4

月～16.4 月下降期は同 31.6%減、31.7%減を示し、ここまでは鉄鉱石輸入価格に関東炉前価格が時期及び増減率ともほぼ連動した。しかし次の 16.6 月から 17.3 月に至る長い上昇期では、鉄鉱石+94.3%に対して関東炉前は+73.8%であって、時期のずれも途中に 3 回も散見される。特に 16 年 8 月の鉄鉱石価格 60 ドルになったあたりから連動が鈍く（ずれ幅が目立つように）なってきており、こうした動きは中国がピレット輸出を減少させていることと符号すると考える。



①下降期(15.1～15.12月)						増減率
鉄鉱石価格	15.1	71ドル	↘	15.12	38ドル	-46.5%
鉄スクラップ	15.1	26,300円	↘	15.11	13,830円	-47.4%
②上昇期(15.12～16.4月)						
鉄鉱石価格	15.12	38ドル	↗	16.4.21	70.5ドル	+85.5%
鉄スクラップ	15.11	13,830円	↗	16.5.16	25,125	+81.7%
③下降期(16.4～16.6月)						
鉄鉱石価格	16.4.21	70.5ドル	↘	16.6.2	48.2ドル	-31.6%
鉄スクラップ	5.16	25,125円	↘	16.7.11	17,167円	-31.7%
④上昇期(16.10月～17.3月) 途中3回の山谷						
鉄鉱石価格	16.6.2	48.2ドル	↗	17.3.16	92.61ドル	+94.3%
鉄スクラップ	16.7.11	17,167円	↗	17.3.22	29,500	+73.8%

2. 新たなステージへ

14年秋頃から始まった安値中国ピレット輸出は、鉄鉱石価格上昇に伴い16年央ごろから減少に転じ、もはや鉄スクラップ価格に影響を与えるほどの力はなくなってきている。約2年間つづいたピレット危惧は影が薄くなり、価格形成は新しいスレージに変わりつつある。しかしまったく元の形に戻るのではなく、主要鉄鋼原料である鉄鉱石価格そのものの影響力はバックボーンとして存在し、それにトルコや韓国市場などの主要市場の鉄スクラップ需給によって価格が形成されるステージとなっていくと推察する。

そして中長期では、やがて韓国や中国の輸出が定着する時（おそらく2030年以降）、世界は需給緩和が免れず鉄スクラップ低価格時代を迎えるだろう。

中国の四大波		2014	2015	2016	2020	2030
第1波	鋼材輸出	→				
第2波	ピレット輸出	→				
第3波	銑鉄輸出			→		
第4波	スクラップ輸出				- - - - -	→

以 上

調査レポート NO 40

「価格形成は新たなステージへ」

発行 2017年4月5日（水）

住所 〒300-1622 茨城県北相馬郡利根町布川 253-271

発行者 (株)鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一

<http://srr.air-nifty.com/home/> e-mail s.r.r@cpost.plala.or.jp